

大杉谷国有林からの手紙

34通目 ～生物多様性について～

豊かな自然を育む大杉谷国有林では、33通目でご紹介した鳥たちだけではなく他の生物にとっても住み心地の良い環境のようです。今回はその中で、特に保護が必要とされているオオダイガハラサンショウウオの生態と、生息調査に参加したことについて紹介します。

(1) 生態について

オオダイガハラサンショウウオ
(*Hynobius boulengeri*)

は成体で体長15cm～20cm、全体的に濃い青紫色をしている小型のサンショウウオです。ただ、写真右のように幼体の際は半透明で2年目に変態して成体になっていきます。

分布域は紀伊山地の標高150m～1700mの森林地帯の谷部分に局所的に生息しています。幼体の時期は溪流の岩の下などで暮らしていますが、2年目になると溪流から上陸して、近くの林床の落ち葉や倒木の下などで生活をします。そのため一年中谷の水が涸れない溪流だけではなく、成体が生育するために広域に分布する森林が必要となってきますが、生息環境の減少に伴い三重県レッドデータブックでは平成18年12月より絶滅危惧種Ⅱ類（VU）に指定されています。また三重県では昭和33年12月15日にオオダイガハラサンショウウオが地域を定めない天然記念物に指定されています。



写真1 オオダイガハラサンショウウオの幼体

(2) 生息調査について

今回参加した調査の内容としては、溪流の上流、下流に分かれオオダイガハラサンショウウオを探し、体長や体重を測定するというものです。同時に何年生の個体かどうかも判別します。

今回私は初めて参加したのですが、雨の後に水量が多かったこと、半透明で灰色がかった幼体が岩に擬態していることなどが重なり見つけるだけで一苦労でした…。どうにか見つけることができ、とても安堵しました。



写真2 生息調査の風景



写真3 オオダイガハラサンショウウオの体重測定

(3) 調査結果について

今回の調査では上流で10個体、下流で5個体見つけることができました。

その後、全ての個体の体長をノギスで測定した後、写真3のように電子はかりで体重測定を行っています。

体長は平均で3cm～4cmの間、体重は約0.5gほどであり全て当年生の個体であることがわかりました。



写真4 水中のオオダイガハラサンショウウオ

(4) 今回の調査結果より

今回の調査結果は昨年度の調査に比べると個体数も少なく、2年生の個体が発見されていない点で変化が見られました。専門家の方の見解を伺うと、今年は桜の開花が早いなどの現象が起きていることから、生物季節が通常よりも早く、通常8月～9月頃に変態する2年生個体が、早く上陸した可能性があることに加え、今回の生息調査は直近に台風が通り過ぎた後の調査であったために、当年生や2年生の個体が今回調査した下流よりもさらに下に流されてしまったのではないかとのことでした。

*参考文献

①三重県指定天然記念物オオダイガハラサンショウウオ保護管理指針,2009,三重県教育委員会

②県指定天然記念物オオダイガハラサンショウウオ 学習会資料

発行:三重森林管理署 尾鷲森林事務所 地域統括森林官